

【報告事項1】 2020（令和二）年度事業報告の件

1) 2020年度国際会議開催

2020年12月9日から11日の3日間、一般社団法人映像情報メディア学会（ITE）とThe Society for Information Display（SID）の共同主催で、初の試みとなるオンラインによって第27回ディスプレイ国際ワークショップ（IDW'20）を開催した。Keynote Addresses キーノート講演としては、まず、日本放送協会 放送技術研究所 所長 三谷公二様より同研究所が研究を進めているダイバースビジョンを中心に、放送技術の未来像について御講演頂いた。続いて、ソニー株式会社 R&D センター チーフ UI デバイスリサーチャー 野本和正様よりディスプレイを中心とした映像テクノロジーをご紹介いただくとともに、ディスプレイの将来的な位置付け・展望等について御講演頂いた。更に、窒化物半導体の分野で著名なカリフォルニア大学サンタバーバラ校の Steven DenBaars 教授より、ディスプレイ技術における窒化物発光デバイスの現状を将来展望も含めて包括的に御講演頂いた。Keynote Address 講演内容に連動した技術展示をオンラインでおこない、8K UHDTV を超えた将来のメディアに向けた研究開発の進歩を紹介していただいた。また最終日には、新たな分野を取り込むために、Media Art Technology に関する Special Session を設け、筑波大学の落合陽一准教授より人と機械の融合を AI で実現するための技術基盤である xDiversit（クロスダイバーシティ） Platform についてご講演をいただいた。

発表論文数は、初めてのオンライン開催ということもあり、281件（昨年465件）と昨年より184件減少し、参加者数も712名（昨年1,242名）と昨年より530名減少したが、科研費などの補助費獲得と支出削減などにより、1,756,467円の寄付を受けた。Proceedings of IDW に掲載された論文に DOI を付与し、インターネット上にオープンアクセスの文献として2020年5月にオープンアクセスで公開した。

2) 記念事業

“Kobayashi-Uchiike-Mikoshiha Prize” に、Prof. Tatsuo Uchida と Dr. Taiichiro Kurita, 2名の受賞者を選定、および IDW '20 オープニングでの表彰を行った。

3) 中長期的検討

昨年度から引き続き中長期的な IDW の運営の議論を実施した。2020年度は7月27日、12月18日に委員会を開催し、主に、下記の通り議論をした。

IDW 長期ビジョンの策定について WS からのアンケート結果をもとにたたき台を作成した上で議論し、基本的には、大きな方向として Society5.0, SmartSociety に向けて分野を広げていくことで合意した。そして、具体的に、オンライン開催を中心に、ディスプレイ技術をどのように展開していくかについても議論する中で、1つの施策として、IDW '21 で新たな方向に向けて映像情報メディア学会とのコラボレーション企画を進めることになった。

4) 会員関連

i) 賛助会員

2019 年度における賛助会員数の推移は次の通り。

- ・ 2014 年度の賛助会員数：8 社
- ・ 2015 年度の賛助会員数：7 社
- ・ 2016 年度の賛助会員数：8 社
- ・ 2017 年度の賛助会員数：8 社
- ・ 2018 年度の賛助会員数：8 社
- ・ 2019 年度の賛助会員数：8 社
- ・ 2020 年度の賛助会員数：9 社

ii) 社員

2020 年度における社員数の推移は次の通り。

- ・ 2020 年 4 月での社員数：56 名
- ・ 2020 年度の増減：入社：3 名、退社：1 名
- ・ 2021 年 4 月 22 日現在の社員数：58 名

iii) 準社員

2020 年度における準社員数の推移は次の通り。

- ・ 2020 年 4 月での準社員数：6 名
- ・ 2020 年度の増減 増：0 名、減：1 名
- ・ 2021 年 4 月 22 日現在の準社員数：5 名

5) 財務関連

新型コロナウイルスの蔓延による減収分への補填として、700 万円の国際会議開催事業運営給付金を予算計上した。しかし、想定以上の参加者と、IDW '20 実行委員会の委員らによるセッション運営や出版等の経費の削減により、剰余金が発生した。実行委員会より剰余金の寄付を受けた。

以上